

## 【実践例：1】 小学校

### ◇「基礎基本の定着」のための手だて

- ・基礎的な内容を定着するチャレンジタイム～国語・算数の取組～  
基礎基本を定着するための手だてとして、週4日のチャレンジタイムのうち、2日間を基礎学力の定着（火曜日：漢字 木曜日：計算、5時間目の後の10分間）にあててきた。  
毎回、担任の熱心な指導や温かな声掛けによって、基礎的な内容の定着を図れるように努めた。

### ◆「わかる授業」のための手だて

- ・児童の主体的な学びを引き出す課題づくり  
児童が、「わかりたい・考えたい」と思う手だてとして、児童の主体的な学びを引き出す「課題づくり」を研究し力を注いできた。すぐには解決できない課題や、どうしても解決したくなる必然性のある課題を設定した。また児童相互で協同的に解決させ、「自分たちで解決できた」「わかった」という喜びを味わわせ、すべての児童が能動的に学習を深めていくことのできる姿を目指して実践を進めた。



【自らの考えを熱心に伝える児童】

### ○成果～全国学力・学習状況調査の児童質問紙より～

#### 〈教科に対する意識〉

- ・新しい問題に出会ったとき「それを解決してみたいと思う」という児童が増えた。
- ・算数の問題がわからないとき、諦めずにいろいろな方法を考えたり、もっと簡単な方法はないか考えたりする児童が多くなった。
- ・国語や算数の授業が好きだという児童がとて多くなった。

#### 〈児童の授業に対する意識〉

- ・話し合う授業をよくしている。
- ・学習を振り返る活動をよく行っている。
- ・わからないことがあったら、すぐにわからないと尋ねている。
- ・日々の授業では、自分の考えについて息の長い発言が増え、話し合い活動が活発になっている。
- ・「学習のふりかえり」には、考えや気づき、新たな疑問等が書けるようになっており、次への学習への意欲化につながっている。

## 【実践例：2】 小学校

### ◇「基礎基本の定着」のための手だて

- ・週に2日間、朝学習の時間を10分間設け、基礎的な学習に取り組みさせた。
- ・算数の既習内容の習得を主な目的とし、個別指導を充実させるために、担任とペア学年の教師が複数で指導にあたった。月1回、木曜日の第6時限に、4～6年生で実施した。
- ・授業開始後の5分間を使い、その授業の主課題のもととなる学習に取り組みさせた。
- ・学期末には、基礎学習の総まとめとして「チャレンジテスト」を行った。テスト前の約10日間は「チャレンジ週間」とし、目標得点をめざして、朝学習や授業時間における復習に取り組みさせた。家庭でもテストに向けての学習に取り組めるよう、保護者にも呼びかけた。
- ・日本語指導が必要な低学年児童を対象に、毎週水・金曜日の第6時限に宿題を個別指導する時間を設けた。日本語指導担当教師やボランティアの方が指導にあたっている。

### ◆「わかる授業」のための手だて

- ・単元ごとに、その単元での「学習を支えるよりどころとなる知識・理解・考え方」を明確にし、それを「根っこ」として全児童に理解させることに力を注いだ。また、新たな課題に取り組む場面で、「根っこ」に立ち返って考えることができるように黒板に掲示した。

(例) 6年「立体の体積」の学習では、「柱体の体積は、一段目の体積×段数である」を「根っこ」とした。直方体で「根っこ」を理解させたあと、角柱、円柱へと学習を発展させた。

- ・児童に提示する資料を工夫し、視覚的にわかりやすい授業に心がけた。また、全ての教室で、テレビの電源を入れるとすぐに見せたい物を拡大投影できるように、実物投影機を配備した。

(例) 2年「三角形と四角形」の学習では、三角形を2つの形に切り分けるためにどこに線を引いたかを説明する場面で、説明する児童が持つ小さな図形を全員に見やすくするために実物投影機を活用した。

- ・毎時間の授業の流れや板書を、「復習→めあて→まとめ→ふりかえり」とパターン化することにより、児童が見通しをもって授業に取り組むことができるようにした。
- ・全ての児童が図形などに触れながら考えたり、身体を動かしながら学んだりする、体験を伴う学習場面を積極的に設けた。

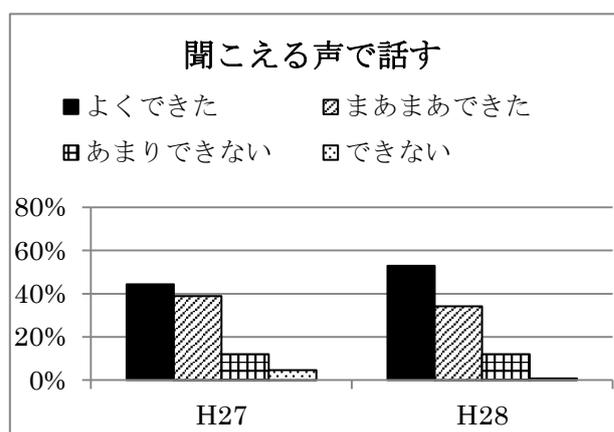
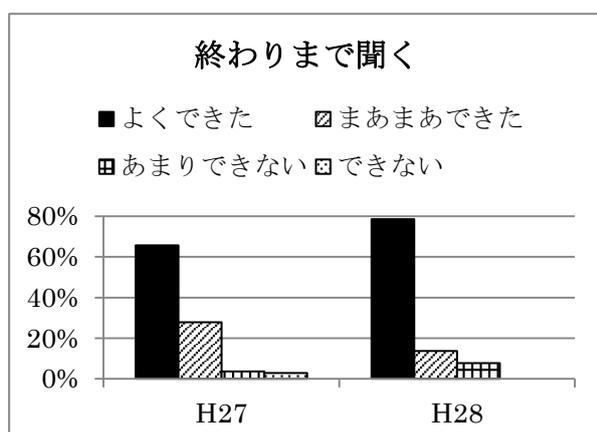
(例) 4年「垂直・平行と四角形」の学習では、垂直と平行を感覚的に理解しやすいように、「垂直ビーム」「平行ビーム」の姿勢をとらせる場面を設けた。



【平行を身体で表す】

## ○成果

- ・基礎的な学習を繰り返し行う時間を設定してきたことで、新たな学習に入ったときにすぐに投げ出すことなく、学習に取り組むことができるようになった。例えば、5年「面積」や6年「立体の体積」の学習では、複雑な形の面積や体積を求める問題であっても、見通しをもち、根気よく問題に取り組む様子が見られるようになった。
- ・全校児童を対象とした「話し方・聞き方」に関するアンケート調査の結果では、多くの設問において、「よくできた」の回答が増えた。以前に見られたすぐに学習を投げ出してしまふことは少なくなり、毎時間の授業に意欲的に取り組むようになった。



【聞く・話すに関するアンケート調査結果】対象：全校児童

### 【実践例：3】 小学校

#### ◇「基礎基本の定着」のための手だて

- ・授業のやくそく（学習用具をそろえる・授業のあいさつの仕方・発表の仕方・聴く姿勢など）を徹底するためにチェックリストを作成し、職員全員が意識できるようにする。
- ・家庭学習を学年×10分+10分と設定し、「家庭学習カード」に学習内容と時間を記入できるようにして、取り組みを充実させる。

### ◆「わかる授業」のための手だて

- 一人一人の子どもが授業に参加し、友達とかかわり合いながら学び合うことができるように、授業の様々な場面でペア・グループ活動を取り入れることを継続して行う。
- 学習の最後に行うふりかえりは、授業のめあてに対するふりかえりと、友達の発言から感じたことの2点について書くことを習慣化する。

### ○成果

- 発表の仕方や聴く姿勢は、1年から6年まで発達段階に合わせて掲示物を作成し、指導を積み重ねてきたので、話型を身につける、整理して話す、友達の考えを理解しようとして聴くといった学習技能が育ってきた。
- 家庭学習では、『家庭学習カード』がとても役立っている」と考えている子どもは全体の82%「まあまあ役立っている」は18%であり、「いつ、どんな宿題や勉強をしたか、学習したことの積み重ねがわかり、自分のためになっている」という感想を持つ子が多かった。
- 「グループで話し合うとき、自分の意見を言っている子」が、全体の85%（1学期）から87%（2学期）と徐々に増えてきており、ペア・グループ活動を通して聴いてもらえる、認めてもらえる安心感から話したい、聴きたいという意欲へつなげることができた。
- ふりかえりを書くことによって、子どもたちは、本時のめあてを意識しながら学習し、友達の意見を聴いて考える力が付いてきた。また、短時間でも多くの文を書くことができる子が増えてきた。

日	科目	単元	自主学習	時間	先生
1	土	漢字	漢字の練習	40分	○
2	日	算数	算数の練習	40分	○
3	月	国語	国語の練習	40分	○
4	火	英語	英語の練習	40分	○
5	水	音楽	音楽の練習	40分	○
6	木	体育	体育の練習	40分	○
7	金	総合	総合の練習	40分	○
8	土	算数	算数の練習	40分	○
9	日	国語	国語の練習	40分	○
10	月	算数	算数の練習	40分	○
11	火	英語	英語の練習	40分	○
12	水	音楽	音楽の練習	40分	○
13	木	体育	体育の練習	40分	○
14	金	総合	総合の練習	40分	○

### 【実践例：4】 小学校

#### ◇「基礎基本の定着」のための手だて

- 学習に向かう姿勢づくり
  - よい姿勢で学習に集中することができるように、読んだり書いたりするときの姿勢を児童に知らせて常に意識させるとともに、机上の使い方等についても随時指導する。
- まとめテストの実施
  - 各学期の終わりに、漢字・計算等を中心としたまとめテストを行い、学力のさらなる定着を図る。

### ◆「わかる授業」のための手だて

- 学習課題の明確化
  - 学習のめあてをはっきりさせて授業に臨むことができるよう、黒板にめあてを明記してノートに書かせる。
- つながる発言による高めあい（話し方・聴き方の指導）
  - 相手にわかりやすい話し方と相手の思いを受け止めようとする聴き方で発言をつなげ、自分と友達の考えを関連させることで、考えを広げたり深めたりする。



### ○成果

- よい姿勢の合言葉「ピン・ピタ・グーのグー・チョキ・パー」が児童に意識づけられ、学習目標のひとつによりよい姿勢を挙げる児童が増えた。
- まとめテストに向けて漢字や計算等を繰り返し練習することで、習得率が上がった。
  - 4年：82→95% 5年：77→95% 6年：77→96% （4年以上合格者数割合 1学期→2学期）
- 学習のめあてを黒板とノートに明記することで児童の思考の方向がはっきりとし、いろいろな考え方を整理してまとめにつなげることができた。

- ・つながる発言を意識した話し方・聴き方を指導することで、友達や先生の話をよく（まあまあを含む）聴く児童が増え（96→98%）、あまり聴かない児童が減った（3→2%）。また、よく発言する児童は増えていないが、あまり発言しない児童は減っている（20→16%）。さらに、考えの根拠を述べたり、友達の考えと関連づけたりした発言が多くみられるようになっている。（児童アンケート1学期・2学期の比較より）

## 【実践例：5】 小学校

### ◇「基礎基本の定着」のための手だて

- ・『漢字・計算コンクールへの取り組みの充実』

各学級で、漢字・計算の練習の仕方について指導を行った。ただ、漫然と漢字を書いたり計算を繰り返したりするのではなく、見直しをしたりできなかったことについて重点的に練習したりすることを自分の力でできるようにした。

- ・『まなボード』を活用した「教え合う」グループ活動の充実

『まなボード』（ホワイトボード）の活用の仕方について研究を深めた。教え合う場面では、「わからない」ことを伝えること、一度教えるだけでなく、例題で確認してみることなど、より具体的なグループにおける学び合いの仕方と『まなボード』の活用の仕方を指導した。

### ◆「わかる授業」のための手だて

- ・『豊川の授業』チェックリストの活用

『豊川の授業』から選択した重点項目について、教員それぞれが反省点や成果を記述し定期的に管理職が点検をするなど、より具体的な取り組みを行った。また、子どもたちの実態に応じて選択する項目を変えることもした。

- ・『まなボード』を活用した「深め合う」グループ活動の充実

授業研究を通して、『まなボード』の活用の仕方について議論を深めた。



### ○成果

子どもたちに主体的に学ぼうとする姿勢が育ってきている。どの学年の子どもたちも、授業の中で自然と『まなボード』を活用することができるようになった。活用することで、少なくとも授業への全員参加が保障され、子どもたちの学ぶ意欲の喚起へとつながった。「わかりたい！」という思いがどの子にもあり、授業に積極的に参加することができる。また、漢字や計算の繰り返しのドリルにも熱心に取り組むことができる。こうした子どもたちの思いに応えるためにも、教師の指導技術をより一層高めていく必要がある。

## 【実践例：6】 小学校

### ◇「基礎基本定着のための手だて

- ・毎時間はじめの5分（国・算）を基礎学習タイムとして、漢字の読み書きや計算練習にあてる。
- ・学期ごとに基礎基本の内容で「力だめしテスト」を全学年で行う。

### ◆「わかる授業」のための手だて

#### ①「かかわり合い」と「学び合い」を意識した授業づくり

- ・授業のねらいを明確化し、子ども自身が「授業のめあて」「課題」をとらえられるようにする。
- ・ペア、グループ学習を効果的に取り入れ、ホワイトボード等を利用し、考えの交流を深めさせる。

#### ②どの子にとっても分かりやすい授業づくり

- ・発問及び指示・説明を簡潔にするとともに、視覚に働きかけた提示を工夫する。
- ・気になる子のつまずきを想定し、その子に合わせた手だてを用意する。（支援ツールなど）

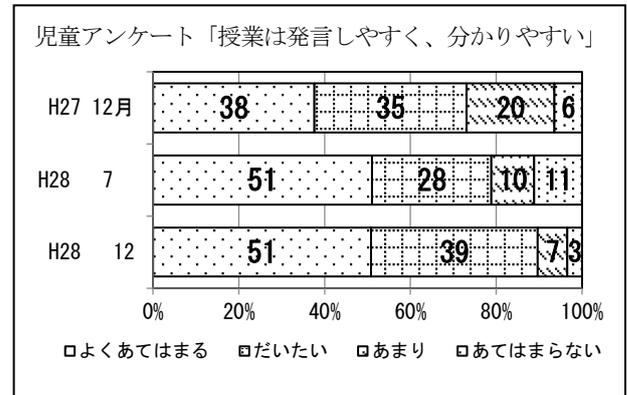
#### ③現職教育等の授業実践の際に、「豊川の授業 16のポイント」を利用して、重点項目を決めたうえで実践を行い、授業づくりへの意識を高め、指導技術の向上を図る。



「この計算のしかたは・・・」

## ○成果

- ・授業はじめに、漢字カードを使った読みの学習や漢字小テストなどを継続して行った。算数では、ペアでの計算音読やフラッシュカードなどを利用して行い、漢字や計算の力が定着するようになっていく。
- ・学期末の力だめしテストでは、がんばりに応じて金銀銅のシールをもらえることを励みとして、ドリル学習に繰り返して取り組む様子が見られた。
- ・各教室にホワイトボードを複数枚用意し、グループ学習や発表する際に利用する機会が増え、かかわり合って学習する場面が増え、意欲化にもつながっている。
- ・授業研究において、「豊川の授業 16のポイント」をもとに重点項目を設定して実践を進めることで、若手の教員を中心に視点をもって授業づくりをしようとする姿勢が高まった。



## 【実践例：7】 小学校

### ◇「基礎基本の定着」のための手だて

- ・授業で、先生の話や友達の話をしっかり聞くことができるように、「聞き方名人あいうえお」を提示し、日々意識させていく。「話し方名人かきくけこ」についても、同様に実施していく。
- ・金曜日は、朝に「自学タイム」、帰りの会に「週間ふりかえり」の時間を設け、個に応じた学習支援を行い、家庭学習（「わくわく学習」）の意欲化と充実を図る。

### ◆「わかる授業」のための手だて

- ・「豊川の授業 16のポイント」と本校独自の「聞き方名人・話し方名人」を基に、月ごとのめあて「チャレンジ〇」を決めて全校に呼びかけるとともに、それを掲示して日々の意欲化を図る。
- ・本時のめあての提示、ふりかえりの時間を確保し、子どものふりかえりを次時に生かしていく。

**11月のめあて**  
**「わくわくチャレンジ3」**  
**「話し方名人」**  
 こ…言葉の終わりまで  
 はっきりと  
 ○班で、思いを話そう  
 ○友だちの思いを聞こう

## ○成果

- ・学校教育アンケートの結果から（しっかり聞くことができた・ややそう思う）  
 「話の聞き方」については、児童 92%、教師 80%が達成。「宿題や『わくわく学習』への取り組み」については、児童 88%、保護者 77%、教師 85%が達成。「分かりやすい授業」については、児童 92%、保護者 75%が達成したと回答している。  
 児童と保護者・教員との意識のずれがなくなるように、個別支援をしていきたい。
- ・毎時間、ノートにふりかえりを書いてきたが、子どもの成長の様子が、書く内容や量から読み取ることができた。

## 【実践例：8】 中学校

### ◇「基礎基本の定着」のための手だて

- ・国語・社会・数学・理科・英語の基礎コンクールを年間8回（3年生6回）実施する。
- ・平日用と休日用に本校独自でテキストを作成し、計画的に学習に取り組ませる。
- ・「学習だより」を発行し、生徒に目標をもたせ、計画的に取り組めるようにはたらきかける。
- ・テスト週間中に、出題範囲の中からさらに範囲を限定してプレテストを行う。
- ・学期に1回「学習アンケート」を生徒に実施し、生徒自身の学習を見直し改善点を洗い出す。

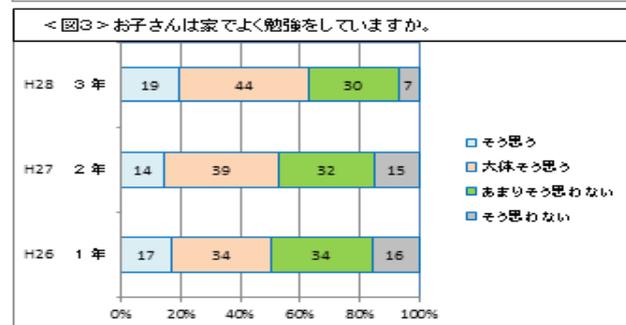
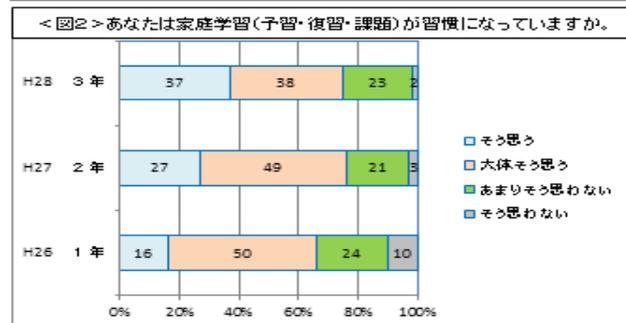
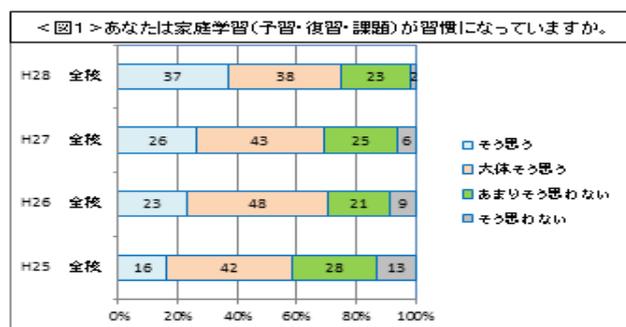
### ◆「わかる授業」のための手だて

- ・全職員が年間に必ず1回の公開授業を行う。参加者は「豊川の授業 16のポイント」チェックリストをもち、記入して授業者に渡す。

### ○成果

- ・家庭学習を充実させるために

<図1>からは、本校の取り組みが年度を重ねるにつれて実を結び、家庭学習の習慣化が図られていることがわかる。また<図2>は、現3年生の入学時からの変化であり、「そう思う」の回答が年々増えていることから、家庭学習を大切にする生徒の意識が高まっていることがわかる。また<図3>は同じ学年の保護者の意識の経年変化である。少しずつではあるが、家でよく勉強をするようになってきたと感じる方が増えている。以上のことから、「基礎基本の定着」を図る手だての一つとして、家庭学習の充実を掲げた本校の取り組みは成果を上げたといえる。課題をよく吟味して作成・計画し、学校として全職員が「確実に学習してくる指導」を大切にされた成果だと考えている。



## 【実践例：9】 中学校

### ◇「基礎基本の定着」のための手だて

- ・授業の始めの5分間程度、一人一人のレベルにあった繰り返し学習を行う。(帯学習)
- ・子どもにとってより効果的な宿題の出し方、予習復習や次の授業に生かされる内容にするなどの家庭学習の工夫をする。
- ・年間5教科の各2回、計10回、基礎学力トライアルを行い、基礎基本の定着を図るとともに、継続して学習に取り組む意識を高めていく。

### ◆「わかる授業」のための手だて…「豊川の授業 16のポイント」を活用

- ・本時の中心となる課題を示し、目的意識をもって学習を進める。
- ・自分の考えをもたせる場（ワークシート・ノートを使用）を設定する。
- ・小グループやペアなどの小集団や全体の場で、課題に対する自分の考えを表現する場を設定し、互いに話したり聞いたりする意識を高める。（コミュニケーション能力）
- ・RPDCAサイクルを意識した、校内研修体制の構築。（授業技術向上、学び



方の研究)

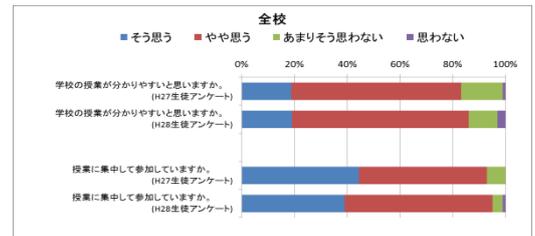
- ・家庭と連携し、基礎・基本の定着を図る家庭学習の工夫を図る。

### ○ 成果

帯活動で繰り返し、基礎基本を復習したことで、個人のまとめや班での話し合いの中で学んだことを活用できるようになった。今後は、言葉の暗記ではなく知識として定着させる方法を確立させたい。

全員が話し合いに参加できるように、学習形態を個人→ペア→全体、個人→グループ→全体などと、大人数での話し合いにつなげる場を段階的に設定することにより、より多くの生徒たちが自分の考えを発表しやすくなり、お互いの考えを伝え合ったり、確認したりすることができた。発言が苦手な生徒も、ペア・グループの話し合いでは他と関わりながら考えを伝え、修正、深化させていくことができ、学習内容の定着に結びつけることができた。

学校評価アンケート『よりよい〇〇中学校にするために』（毎年度実施）では、「学校の授業が分かりやすいか」の質問に、「そう思う」と答えた生徒が85%に達する。「授業に集中していますか」の質問においては94%を超え、前年度に比べても、それぞれの質問で2%のアップであった。生徒たちの多くは、より目的意識をもって学習を進めるように成長した。保護者の捉え方も同様に、「楽しく学校に通っている」などの項目について、よりよく評価されている解答があった。



### 【実践例：10】 中学校

#### ◇「基礎基本の定着」のための手だて

- ・学習習慣と学力の定着、またやればできるという自信をもたせることを目標に、学習トライアルを実施する。
- ・毎日の課題への取り組み、予習復習、テスト勉強の時間、家庭での過ごし方について、学校便りや学級通信、PTAの集会などで保護者に伝え、連携を図る。

#### ◆「わかる授業」のための手だて

- ・落ち着いて学習に取り組めるよう、学習規律を徹底させる。
- ・解決が困難な生徒と解決が早い生徒の両方に、個に応じた支援を行う。
- ・板書の工夫、グループやペア活動を効果的に取り入れる。
- ・タブレットPCやビデオなどICT機器の活用を図る。

### ○成果

- ・生徒の思考を深めるような発問に心がけ、グループやペア活動を効果的に取り入れた授業を全教科で実践した。生徒アンケートからも、グループやペア活動実施回数が増えていることがうかがえる。

また、この取り組みが教科を越えた相乗効果を生み出しており、自分の考えを確かめたり、また自分の表現を高めたりする機会となり、主体的な学びへと発展している。

1 グループやペア活動が1年から3年生までの間に増えたと感じるか（1年生は小6から中1で）	【91%】
2 グループやペア活動のよいところほどんな点だと感じる（10項目から複数回答）	<ul style="list-style-type: none"> <li>①分からないところを教えてもらえる 【75%】</li> <li>②全体より自分の考えが表現しやすい 【65%】</li> <li>③全員が授業に参加できる 【62%】</li> <li>④友達の考えと同じだと安心する 【60%】</li> </ul>

- ・単にグループやペア活動を導入するのではなく、授業のねらいに合わせて、グループ構成を考えたり、活動を取り入れるタイミングを工夫したりしたため、生徒は問題意識を継続させることができた。